『文化財論叢Ⅳ』の刊行

昨年10月、奈良文化財研究所創立60周年を迎えたことを記念し、『文化財論叢Ⅳ』が刊行されました。『文化財論叢』は、これまで30、40、50周年の節目に刊行されてきました。今回で4冊目にあたるこの論文集は、奈文研に在籍、あるいは関連する研究者総勢78名の日ごろの研究成果が収録されたもので、論文76編、1479頁と、これまでで最大のボリュームになっています。

奈文研の研究職員の専門分野は、考古学、文献史学、建築史学、造園学、保存修復科学、年輪年代学、環境考古学等多岐にわたっています。この論文集の内容も文化財に対する総合的なもので、扱っている時代は旧石器時代から近代まで、地域も日本列島のみならず、中国、韓国、東南アジア等本当に様々です。また、文化財の保護や活用に関する研究成果についても収録しています。

松村所長が序言のなかで、「個人研究と共同研究は車の両輪であり、両者の密接な提携なくしては良好な研究成果は期待できない。研究所の研究成果は、常に共同研究の中で切磋琢磨された個人研究が核となる」と述べています。『文化財論叢Ⅳ』はこれを具現化したものといえるでしょう。そして、われわれは今後も研究活動をつづけていきます。

なお、この『文化財論叢』は、この5月『文化財学の新地平』と改題して、吉川弘文館から発売されています。ご興味がある方は、ぜひ手に取っていただき、文化財研究の最前線に触れてみてはいかがでしょうか。　　（奈文研ニュース編集委員会）

これまでにないボリュームとなった文化財論叢Ⅳ